

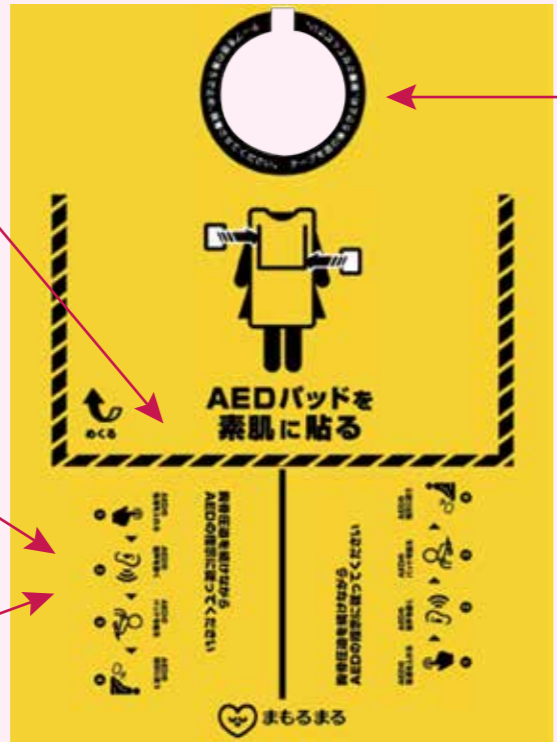
倒れた人の命と、  
助ける人の勇気を守りたい

女子医大生が考案！

# プライバシー保護用シート「まもるまる」

MAMORUMARU

- 1 コの字型の切り込み**  
ここから手を入れてAEDパッドを貼る。パッドや胸骨圧迫の位置が確認できる。  
胸骨圧迫でずれないように面ファスナーが2か所に付いており、留められる。
- 2 シンプルなイラスト**  
緊急時でも手順が一目でわかる。
- 3 手順の向きを工夫**  
通常横から救命措置を行うため、見やすい。



- 4 首の後ろで面ファスナーを留める**  
頭を持ち上げる必要がなく、迅速に対応することが可能となる。
- 5 折りたたみ式**  
コンパクトに収納でき、開くだけですぐに使える！

《使い方》



まもるまる (AED使用時 プライバシー保護用シート)  
¥3,800 (税込 ¥4,180)  
【サイズ】縦950×横700mm【質量】120g【材質】ポリエステル

**女性へのAED使用率低下の背景**  
女性へのAED使用率が低い原因の一つとして、救命処置の際、肌に直接触れたり見たりすることへの抵抗感が考えられています。心停止で倒れた人を救いたいという思いがあるにもかかわらず、その抵抗感が障壁となり救命処置が行われないことがあります。

**プライバシー保護と効率的な救命処置**  
「まもるまる」は体を簡単に覆うことができるシートです。このシートを使えば、倒れた人の体が露出されるのを防いだまま、迅速にAEDの使用・胸骨圧迫を行うことができます。もちろん、抵抗感があるのは女性だけとは限りません。このシートはさまざまな環境でさまざまな方にご使用いただけます。コンパクトに折りたたみため、AEDボックス内に収納可能です。



当組合は、子どもたちの「未来」のために先生方の「いま」をサポートするための活動を製品開発や流通を通して行っております。先生方の日常にあるお困りごとやご要望と一緒に解決していきましょう！

先生方の  
教材・教具と保健室に対する  
生の声を  
お聞かせください！



「JKK NEWS1月号」への寄稿をご快諾いただきました。文部科学省 初等中等教育局 望月局長に心より感謝申し上げます。(JKK NEWS事務局)

1  
2025

学びと  
健康を  
支える



jkkcoop.net

生徒×先生×組合員で作った  
**オリジナル  
防災セット**



謹賀新年  
happy new year

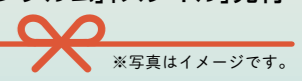
インクルーシブ教育  
第1回 **教材  
コンテスト**  
受賞作品の  
製品化プロジェクト  
途中経過報告

特集

- ご挨拶  
文部科学省 初等中等教育局長 望月 禎
- 生徒×先生×組合員で作った「オリジナル防災セット」  
奈良女子大学附属中等教育学校 6年 小坂井 希実
- 第1回インクルーシブ教育教材コンテスト  
「受賞作品の製品化プロジェクト途中経過報告」



2025年版「インクルム」「スクイル」発刊



## 新年のご挨拶



全日本学校教材教具協同組合（JKK）理事長

小林 広樹



あけましておめでとうございます。日頃より全日本学校教材教具協同組合へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年も組合活動の一環として、教育現場での実践的な学びを支えるための活動に取り組んでまいりました。特に、「子どもたちの主体的な学び」をテーマにさまざまな体験活動を提供いたしました。たとえば、ポッチャやフロアボールといったユニバーサルスポーツを通じて障がい者理解を深め、楽しさを体験してもらいました。また、高齢者疑似体験や天板代替の作業を通じて、社会の一員としての責任感や思いやり、また持続可能な社会基盤づくりの考え方を育ててまいりました。これらの体験活動が、学びへの意欲や自信を深めるきっかけとなったことは何よりの喜びです。

### インクルーシブ教育への取り組み

JKKが目指すインクルーシブ教育に対する、組合員の理解も深まったように感じております。特別な配慮が必要な子どもたちにも、主体的に学べる環境を提供することは、私たちの活動の中心テーマであり、今後もその実現に向けた教材や教具の企画・開発を進めてまいります。その一環として、昨年は第1回「インクルーシブ教育教材コンテスト」を開催できました。全国からご応募いただいた作品に対し厳選なる審査の結果、最優秀賞はじめ9作品の受賞作が誕生しました。表彰式では「あの子の教材がみんなの教材に」を合言葉に、先生方が一人の子どもへの学びや成長のために考えた、思いの詰まった教材についてのプレゼンテーションをし、そのクリエイティブ力や情熱に感銘を受けると共に、こうした教材が商品化され、他地域の先生方や子どもたちに情報が届けられることを推進していきたいと強く感じた次第です。

### オリジナル防災キットの制作活動

その一方で組合員の学校への関わりも変化してきました。特に注目すべきは、本誌でも取り上げております奈良女子大学附属中等教育学校の生徒たちが、(有)東洋理化（組合員）の協力のもとで行ったオリジナル防災キットの制作活動です。このプロジェクトは、地域社会や災害への備えについて考え自らの手で解決策を模索するという、まさに「主体的な学び」の好例でした。生徒たちがプロジェクトを進め、問題解決に向けた議論を重ねたことで、学びの本質である「実践」を体感したことと思います。このような取り組みを通じて、子どもたちが未来の社会を築いていくための力を養うことができると確信しました。さらに、このような活動は社会とつながり自分たちの役割を認識する大きなきっかけとなります。防災活動という実課題に取り組む中で、子どもたちは「自分たちができることは何か？」を考え、問題解決に向けて主体的に行動する力を身につけました。これからの社会で求められるスキルは、まさにこうした「自分から積極的に動く力」や「社会貢献への意識」だと考えており、その土台作りを支える活動ができたことを嬉しく思います。

### 結びに

2025年を迎えるにあたり、私たち全日本学校教材教具協同組合は、「主体的な学び」を支援するための活動を一層強化し、教育現場での多様なニーズに応える教材や教具の開発を進めていく所存です。

引き続き各地の学校との連携を深め、共に育む学びの場を提供できるよう努めてまいります。これからも、子どもたち一人ひとりが自分らしく成長し、未来に向けての力を育むことができるような支援を行っていきます。

新しい年が、皆様にとって素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新年のご挨拶



文部科学省 初等中等教育局長

望月 禎

#### 略歴

平成 3年 4月 文部省入省  
平成 19年 1月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長  
平成 19年 7月 文部科学省初等中等教育局企画官  
(命)初等中等教育局初等中等教育企画課小学校連絡調整官  
(併)初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長  
平成 20年 8月 文部科学省大臣官房総務課副長  
平成 21年 9月 文部科学省大臣秘書官事務取扱

平成 22年 9月 文部科学省大臣官房人事課人事企画官  
(併)大臣官房人事課副長  
平成 24年 8月 文部科学省初等中等教育局主任視学官  
(併)初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室長  
平成 26年 7月 文部科学省初等中等教育局教科書課長  
平成 29年 2月 独立行政法人日本スポーツ振興センター理事  
平成 30年 7月 文部科学省初等中等教育局教育課程課長  
平成 30年 10月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長  
令和 元年 7月 文部科学省大臣官房総務課長  
令和 2年 10月 文部科学省大臣官房人事課長  
令和 4年 9月 文部科学省大臣官房長  
令和 5年 8月 文部科学省総合教育政策局長  
令和 6年 7月 文部科学省初等中等教育局長

令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

全日本学校教材教具協同組合におかれましては、日ごろから、学校教育教材・教具の開発や普及等に格段の御尽力をいただき、心から敬意を表します。関係者の皆様にとって、新たな年が幸多き一年になりますようお願い申し上げます。

### 学習指導要領を踏まえた安定的かつ計画的な教材整備の実現に向けて

適切な教材の整備充実は、児童生徒の関心・意欲や知識理解の質をさらに高め、確かな学力の育成を図る上で極めて重要であり、加えて、教師の授業準備や教材研究の負担軽減効果も期待でき、各学校における働き方改革の推進にも資するものと考えられます。このため、文部科学省では、学習指導要領に対応する教育条件整備策の一つとして、令和元年8月、義務教育諸学校における教材整備の目安となる「教材整備指針」の一部改訂を行いました。また、この指針に例示される学校教材の整備が安定的かつ計画的に実施できるよう「義務教育諸学校における教材整備計画」を策定し、令和2年度から10年間、単年度約800億円の地方財政措置が講じられているところです。このほかにも、「理科教育振興法」に基づく理科教育設備の整備等を進めています。

GIGAスクール構想の進展を中心として学校の教育環境に大きな変化が訪れていますが、教材整備の重要性は変わりません。文部科学省としては、教材整備指針の趣旨や財政措置の考え方等について改めて周知を図っていくほか、例えば、各地方公共団体に設置される総合教育会議において、首長と教育委員会が、教材整備の必要性・教育効果等を積極的に協議・検証するなどして教材整備に必要な予算が確保されるよう、ホームページや事務連絡による周知等を通じて促していくなど、引き続き学校教材の整備充実に向けた取り組みを進めてまいります。

### GIGA スクール構想の着実な推進について

文部科学省においては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、教育の質を向上させていくため、一人一台端末を用いた優れた実践例の創出や展開、デジタル教材等の活用の促進など、ハード・ソフト両面からGIGAスクール構想を推進しております。

引き続き、誰一人取り残されない教育の一層の推進や情報活用能力の育成などの学びの変革につなげるため、一人一台端末の更新を着実に進めるほか、教育委員会や学校に対する徹底的な伴走支援の強化に努めるなど、GIGAスクール構想の次なる展開に向けて取り組んでまいりますので、御支援・御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 結びに

初等中等教育は我が国の未来を切り拓くものです。文部科学省としましては、引き続き、子供たちの未来のため、そして子供たちのために熱心に取り組まれている関係の皆様をしっかりと支えるために、必要な施策に取り組んでまいります。全日本学校教材教具協同組合の皆様におかれましても、引き続き、学習指導要領に沿った教育活動が十分に展開されるよう、魅力的・効果的な教材の開発・確保・普及に一層の御尽力を賜ればと存じます。

結びに、全日本学校教材教具協同組合のますますの御発展と、関係各位の御活躍を心より祈念申し上げます。

インクルーシブ教育  
第1回 **教材  
コンテスト**

受賞作品の

**製品化プロジェクト  
途中経過報告**

「あの子の教材をみんなの教材に」受賞作品製品化へ

第1回インクルーシブ教育教材コンテストは、応募総数 251 点のなか、9 作品が入賞を果たしました（詳細は公式 HP（<https://inclu-kyouzai.com/>）参照）。JKK では、コンテストの目玉の一つである「受賞作品の製品化」を達成するため、考案者の先生方や教材メーカーと協力し、現在製品化を進めています。

完成した製品は、JKK の組合員が全国の学校に教材としてお届けすることで、コンテストのキャッチコピーになっている「あの子の教材をみんなの教材に」という思いを実現したいと考えています。これらの教材が地域から日本中に広がり、いずれは世界中の子どもたちの手に渡ることを願っています。今回は、2025 年 4 月発行のインクルーシブ教育教材カタログ『インクルム 2 号』に掲載予定の教材のなかから 3 製品をご紹介します。

**最優秀賞「フットカーリング」**

これは足で蹴るカーリングです。

学校現場ではポッチャやモルックなど手で投げて行う運動が浸透していますが、考案者の清水里佳先生は、足を使って力加減を学ぶ教材も必要と考え、カーリングを題材としたオリジナル教材を作りました。先生はカーリングでいうストーンを紙皿で作り、そのなかに紙の芯を入れることで強度を出しました。

製品化にあたっては、子どもたちが踏んでも潰れる心配のない素材を選びました。また、アイデアの元になったカーリングは、ストーンの滑りの良さや、ストーン同士が当たったときに弾かれて動く様子が面白さのひとつと考え、底面を滑りやすく弾きやすい素材にすることでその魅力を実現しました。さらに、どなたでもご参加いただけるオプションも開発中です。

蹴るコントロールゲームのアイデアが、いよいよカタチになります。この新たな教材を現場に取り入れて、どうぞ皆さんで楽しんでください。



清水先生が教室で使用している様子。床に貼った目印をめがけてストーンを蹴り、フラフープで点数の判定をしている。



紙皿が潰れないように、拡大コピー用紙の使用後の芯を切って紙皿の中に入れてある。試合ができるコートも企画中。

**優秀賞「お金位取りシート」**

考案者の三好恵美先生にお伺いしたところ、「1234 円」を「いちにさんよん円」と読んでしまう児童がいて、位取りの理解が十分ではないと気づいたことが、この教材を作ったきっかけだそうです。数字だけを見ると「1234」ですが、実際は「1000」「200」「30」「4」で構成されています。カードを一つひとつ取るという単純な動作で、構成されている数字の中身が見える仕掛けにしたのが審査でも注目されました。実際の授業では、先生が子どもたちに説明しながら磁石付きのカードを黒板やホワイトボードに貼ったり外したりするので、強度面の課題をクリアするための試行錯誤が、製品化に向けた取り組みでも大変な点でした。より使いやすい教材を目指し、先生と相談を重ねながら開発を進めました。その結果、使いやすく、子どもたちにわかりやすい教材に仕上がりましたので、ぜひ実物をお手にとってお試しください。



カードに金額を書いたあと、位ごとにバラバラにすることで、位取りの仕組みを視覚化できる。掲示用だけでなく手元で行うためのシートも作成し、繰り返し学習ができるようにしている。

**特別賞「時間ばっちりクリアシート」**

受賞された稲田拓也先生は、時計模型の上に「あと〇分」と書かれた透明のシートを乗せることで、時間を読むための補助ができる教材を作られました。時計の学習の教材は商品としても数多く存在していますが、審査では「あるようでなかった」という感想が飛び交うほど、シンプルでありながら価値のあるアイデアが光りました。製品化ではより使いやすい仕様を検討し、シートを付けたまま時計の針を動かすことができるようにしました。多くの教材があるなか、少しでも子どもたちがわかりやすくなる工夫をし続ける先生のアイデアが光る、「あるようでなかった」教材をぜひ使ってみてください。



たとえば「9時45分の35分後は何時何分？」という問題の場合、まず長針の位置にシートの赤い「0」を合わせます。

**インクルム 2 号にご注目！**

『インクルム 2 号』には今回ご紹介できなかった教材も掲載予定ですので、どうぞご期待ください。

インクルーシブ教育  
教材コンテストサイト

第1回受賞者の  
教材プレゼン動画公開中



公式 HP



公式 Instagram

子育てしやすい  
社会を、みんなで。  
NISSAY  
ペンギンプロジェクト  
PENGUIN PROJECT

詳しくは特設サイトで！  
子育てについて  
ペンギンと一緒に学ぶ  
マンガも公開中！

日本生命保険相互会社

EVERNEW  
当たっても痛くない  
開閉式ハードルバー

EGC230 BIYONバー (2個入)  
普通のハードルバーを差し替えて開閉式ハードルに変身

株式会社 エバニュー  
東京本社 : 〒136-0075 東京都江東区新砂 1-6-35 JMF ビル東陽町 02 6F  
TEL.03-3649-3052 (代) FAX.03-5683-5946 E-mail:a-fevernew.co.jp  
大阪営業所: TEL.06-6762-2431 FAX.06-6762-2425 E-mail:osaka@evernew.co.jp  
お気付きの点並びにご不明な点は、購入先または弊社へお問い合わせください。

公式サイト 商品紹介

今すぐ使える！  
特別支援  
アイデア教材 50

大塚特別支援学校の実践から  
うまれた作り方・活用法  
子どものできることにあわせて、現場で  
使える教材です。コピー＆ダウンロード＆  
アレンジOK!! ●2200円(税込)

知念洋美監修 青木高光監修  
言語指導のプロ監修のもと、子どもたちの  
「生活」を育てるために活用できる  
カード教材。●3300円(税込)

3歳から

合同出版 SINCE 1958 〒184-0001 東京都小金井市関野町 1-6-10  
【ご注文】☎ 048-291-9412 FAX 048-291-9414

70th  
合同出版 70周年

今年もよろしくお祈りします

アイデア  
Eを  
かま  
まに

sanwa 株式会社 三和製作所  
〒132-0021 東京都江戸川区中央 4-11-8 tel.03-5607-7811(代)  
<https://www.sanwa303.co.jp>

# 生徒×先生×組合員で作った

奈良女子大学附属中等教育学校6年  
小坂井 希実さん

# オリジナル防災セット



## 1 オリジナル防災セットを作ろうと思ったきっかけはなんですか？

東日本大震災の復興支援を行う本校の有志団体「ならふく」での活動の中で、本校の防災備蓄品について考える機会があり、管理の不徹底に衝撃を受けました。そこで備蓄品の内容や備蓄の仕方について話し合い、災害が起こってから帰宅するまでの間に必要なものをまとめた「防災セット」を導入することを決めましたが、既製品の防災セットや帰宅セットは内容に納得がいかなかったり、値段が高すぎたりしたため、一から作ることにしました。

## 2 オリジナル防災セットにこれらの商品を選んだ理由

**米粉クッキー・水**  
入学から卒業までのあいだ賞味期限が切れないよう7年保存の物を採用。アレルギーに配慮して食料には米粉クッキーを選びました。

**くるくるトイレ**  
処理のしやすさが特徴の携帯トイレは、帰宅を想定したセットに最適だと考えました。また、学校全体で備蓄しているトイレもこの商品なので、一度説明しておけば使用方法などで混乱しなくて済むことも決め手の一つです。

**サイコール**  
命の危険にさらされている状態では、声を出して助けを求めることは難しくても、笛を吹くことはできるということを知り必要だと思いました。サイコールは強く息を吹かなくても音がしっかりと鳴り、出る音も聞き取りやすい高さになっているので、この商品を選びました。



## 3 セットのこだわり

**ガイドブック**  
もともとは女性用の防災ガイドブックでしたが、男女どちらも使えるように表紙や内容の一部を変更してもらいました。被災時に役立つ生理の知識については、読むことで女性の生理について理解を深めるきっかけになってほしいと考え、あえて残してもらいました。

**箱のデザイン**  
どの学年の物がすぐにわかるよう、学年ごとに分けているスリッパの色と対応したステッカーに〇期生の数字を印刷し箱の側面に貼りました。数字はユニバーサルデザインの中から一番見やすいものを選びました。また、セットを保管する場所は災害時に暗くなってしまうことが予想されるので、反射シートを貼りました。



## 4 セットを作っていて思い出に残るストーリー

防災セットや、学校全体の防災備蓄品に入れる食料について何を揃えようかと話し合ったところ、実際に食べてみるとわからないという結論に至りました。そこで、先生や東洋理化学さんに相談し、昨年の夏休みに学校で非常食試食会を実施しました。事前にいただいていた防災・防犯カタログ「LIFEZACK」から食べてみたいものを選び、30種類以上の非常食を東洋理化学様にご用意していただき、食べ比べて選ぶことができました。

## 5 セットを作るにあたり苦労したことは？

### 予算

防災セットは学校全体の防災備蓄品とは別枠のため、学校の予算とは別に各家庭がお金を出して買うこととなりました。保護者の方々の理解を得るためには値段を抑える必要がありましたが、内容について妥協はしたくなかったため、細かいところをかなり調整していただいて、できる限り値段を抑えたセットを作ることができました。

### 置き場所

提案当初は、生徒がそれぞれ自分の教室に置いて管理することを想定していましたが、かなり場所をとるため先生方から理解を得られませんでした。そこで妥協策として、半年前まで防災倉庫として使っていた体育館にある一室にまとめて管理することにしました。この管理方法が最善であるかは、生徒や先生方に今後もよく議論してほしいと思っています。

## 6 セットが完成した時どう思ったか？

防災セット制作は「防災教育の在り方と課題」というテーマで行った探究活動の中の一つでした。簡単に形あるものができるわけではないテーマだったため、防災セットという「もの」が実際に完成した時は特別な達成感を抱きました。一方、ここでお話ししたような経緯を知らない人たちが防災セットを受け取っても、防災意識の向上にはつながらず、取り組みが形骸化してしまうのではないかと危機感もあります。防災セットを配るときこそ防災意識を高める絶好のチャンスだと思うので、どのようにこのチャンスを活用するかは、自分もこれからの課題にしていきたいし、後輩や先生方にもよく考えてもらいたいと思います。

## 7 制作にあたり協力いただいた方、その方へのメッセージ

### 探究班のメンバー

毎週水曜日にある「探究II」の時間を使って防災セット、防災倉庫、防災教育について議論した仲間たち。「防災班」と呼ばれ、校長先生からも信頼を得て、学校の防災に関わる様々なことに関わりました。自分とは意見も視点も違う彼らの存在があったからこそ、いろいろなところに配慮した防災セットを作ることができたと思います。

### 梅川さん

生徒からも意見を出しやすい明るい雰囲気の方で、学校(生徒、先生)と企業(東洋理化学さん)が一体となって防災セットを作ることができました。**〈梅川さんへのメッセージ〉**防災セットの完成は「学校の防災」にとって決してゴールではありません。これから考え改善していかなくてはならないことが、防災セットにも防災倉庫にもたくさんあると思います。そもそも防災には継続が不可欠です。防災士でいらっしゃる梅川さんのお立場からも、今後ともご協力よろしくお祈りします。

## 8 読者へのメッセージ

学校は子どもが生きていくために必要な知識や経験を与える場所なので、防災においてもただ生徒の安全を守るだけではなく、災害大国日本で生きていくための、そしてより多くの命を守る人になるための「防災教育」をしてもらいたいです。そのために防災セットのように実物を目の前にして防災を考えられる取り組みは効果的だと思います。

## 防災担当教員のインタビュー 奈良女子大学附属中等教育学校 落葉 典雄先生

オリジナル防災セットを生徒に作ってもらおうと思ったきっかけを教えてください。

「探究II」の時間にこれに取り組んでおり、それなら生徒が内容や外箱なども考えればよいかと考えて、一緒に取り組むことにしました。

セットづくりに取り組む生徒たちを見てどう思いましたか？

セットに何を入れるかをグループで考えるワークショップを企画し、HRの時間を使って学年全体を動かしていく様子を見てすばらしいと思いました。

オリジナルのセットを作るに当たり学校側としての配慮はありましたか？

道は険しく、周囲の理解を得ることに努力や時間を要したのですが、校費で購入するのではなく、生徒が購入することに意味があると思いました。

そうすることで生徒もご家庭も自分ごととして捉えることができます。卒業後は持ち帰るので具体物があることで、防災意識を高めて持続できることや家族や地域に広げることができるかと思っています。

頑張った生徒たちに一言お願いします。

新たに持つことになったオリジナル防災セットは、生徒や家族、さらには各地域の防災意識の向上に役立ち、間接的に多くの人の命を救うことになると思います。自分たちがしたことに誇りを持ってください。

特に、防災グッズ選びのワークショップの企画と防災HRの運営はすばらしかったです。

読者に向けてメッセージをお願いします。

予算や授業時間など、各学校で多くのハードルはあると思いますが、防災セットという具体物を伴った防災HRの実施は、とても意義のあることだと思います。

また、ガイドブックを使って、避難所で生理の女性がづらい思いをしていることを例に、ジェンダー教育や、「目の見えない人が避難所に来たとき」というような具体例を出して、社会的弱者に思いやりを持つことなど、さまざまなHRの展開もできるかと思っています。

## 組合員コメント 有限会社東洋理化学 代表取締役社長 梅川 祐嗣さん

奈良女子大学附属中等教育学校様とのご商談は、防災・防犯カタログ「LIFEZACK」から、備蓄トイレ、水、防災食を納品させていただいたことが始まりでした。防災担当の先生は非常に高い意識をお持ちで、商談は全体を通してスムーズに進みました。学校備蓄品を納品する際に、先生より帰宅支援セットの話が別途進行していることを伺いました。LIFEZACKに掲載されているレスキュー3のような商品が良いと思い、ご提案させていただいた結果、防災担当の先生と生徒さんと一緒に箱のデザイン、商品内容、予算を決めて採用に至りました。皆さまの防災に対する意識が高く、セット作りに関わる中で、私も今まで以上のオリジナル防災セットを作りたいという気持ちが芽生えました。そして検討を重ね、できあがったセットはすばらしいものになったと思います。

納品後、関わった先生や生徒さんにお会いして感想を伺いましたが、非常に気に入っていただけたことで、やりがいを感じる事ができました。後日、生徒さんからお礼の言葉と「そもそも防災には継続が不可欠です」という言葉をいただき、この言葉の重みを感じるとともに、今後奈良女子大学附属中等教育学校の皆さまと共に帰宅支援の防災セットをアップグレードしていきたいと考えています。



梅川 祐嗣さん 小坂井 希実さん 落葉 典雄先生